

【回答率】保護者90%、児童99%、職員100%

【児童に関する質問についての分析・考察】

（質問1、3、4、6、8について）

グラフ1、3にあるように、90%以上の児童が、楽しく、友達と仲良く学校で過ごしていると回答し、またグラフ6にあるように、約85%がコミュニケーションに対して肯定的回答をしている。学校基本経営方針で位置付けている「安全・安心の学校づくり」の取り組みが効果的であることを示していると考えられる。また、グラフ8にあるように、9割近い児童が夢や将来の目標、めあてをもって生活していると回答しており、前向きな気持ちで生活できていることがわかった。一方でグラフ4にあるように、約25%の児童が不安なことや困ったことを相談することについて不安を感じていることがわかった。教育相談員やスクールカウンセラー、養護教諭等といった、気軽に相談できる相手がいることを児童に周知していく。また、年間を通じて計画的に実施している教育相談や学校生活アンケートをより丁寧に実施していくことで、保護者と協力しながら不安を抱えている児童に気づける体制をより確かなものにしていく。

（質問2について）

今年度重点的に取り組んでいる挨拶については、グラフ2にあるように、約95%の児童が自分の取り組みについて肯定的にとらえていることから、取り組みによって、児童に良い効果が表れていることがわかった。一方で、周囲の大人（保護者や学校職員）の肯定的回答はやや下回っていることから、児童の挨拶について、もっと向上できていると感じていることが考えられる。周囲の大人が率先して、気持ちの良い挨拶を実践していくことで、児童のさらなる向上をうながしていく。また、この取り組みを継続・向上していくことで、児童の人間関係づくりの力を育て、自分も周囲の人も居心地のよい環境を、自らつくっていける能力を育んでいく。

（質問5、7について）

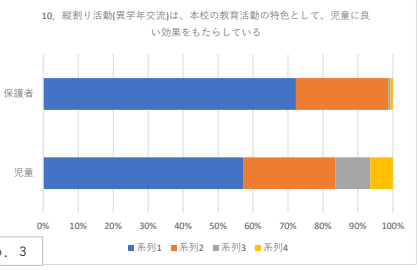
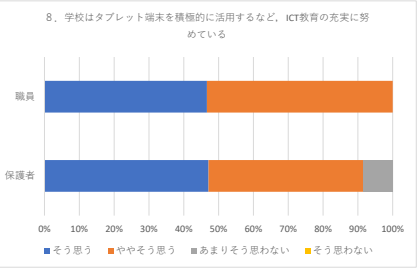
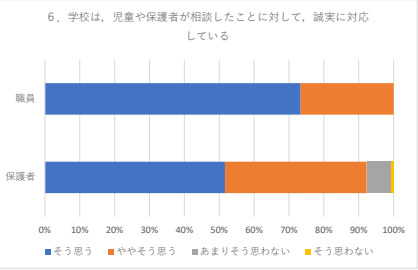
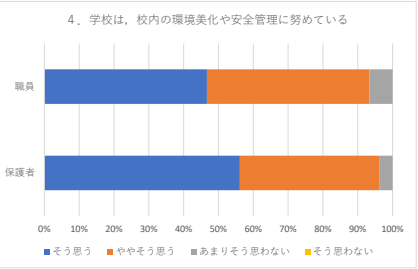
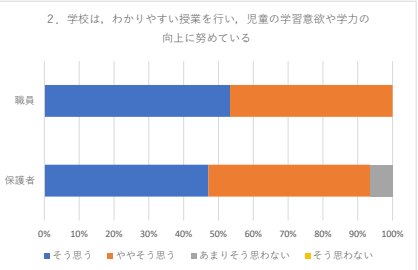
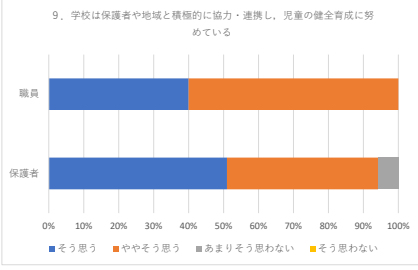
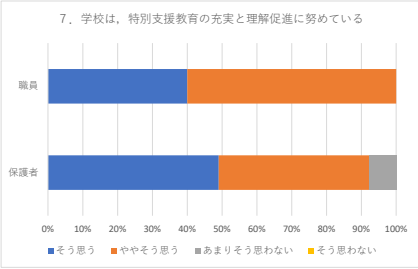
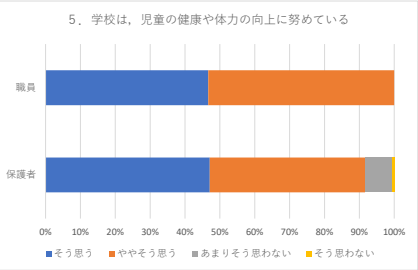
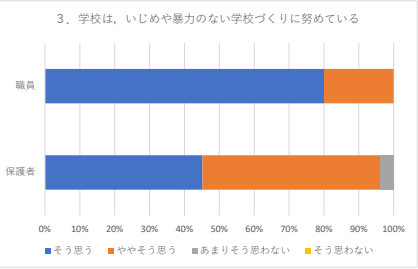
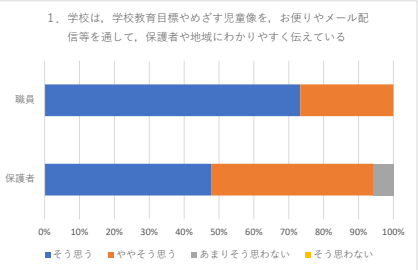
グラフ5、7にあるように学習や運動について、85%前後の児童が肯定的な回答をしており、本校の教育活動に意欲的・積極的に取り組んでいる児童が多く、特に運動面については「そう思う」とより肯定的な回答をした児童が65%以上と高い割合を示しており、体育の授業や異学年交流による活動等の教育活動の効果が表れていると考えられる。

一方、どちらの項目も児童、保護者の評価は差があることがわかる。これは、学校では授業等の学習や運動活動に意欲的・積極的に取り組んでいるが、家庭での児童の姿・様子はそうではないという状況が考えられる。学校・保護者が連携・協力して学習や運動について両面で取り組んでいく必要がある。

また、学習や運動に対する意識や取り組みの二極化が懸念される。1人1人の児童が、より自分に適した学習・運動に取り組めるような工夫が学校・家庭で必要だと考える。

（質問9について）

グラフ9にあるように、児童の肯定的回答は8割弱であった。保護者はさらに少ないことから、学校は、より一層清掃活動や係活動等の特別活動を工夫して、児童がより主体的に活動できるようにし、また、保護者への広報活動を工夫して、子どもたちの日々のがんばりをおうちの方からも認め励ましてもらえるようにしていく必要があることがわかった。



【学校に関する質問についての分析・考察】

(総括して)

どの質問についても、保護者からほぼ90%またはそれ以上の肯定的回答を得ることができた。学校職員も同様の傾向を示しており、それぞれの取り組みに対して自信や責任感をもって取り組み、自己評価をしていることがうかがえる。今後も、学校運営協議会やPTA、保護者会などの場を利用して、保護者が感じている課題点を共有し、どう改善していけばよいか協議・協力できる雰囲気・体制づくりに継続して取り組んでいくことで、保護者からの信頼を確固たるものにしていく。

(質問3、6について)

どちらも、保護者よりも学校職員の方がより肯定的にとらえていることがわかった。否定的回答に注目し、それをゼロにする努力を積み重ねていかなければならない。一つ一つ丁寧に聞き取り、問題解決に向けて保護者と共に取り組んでいけるよう信頼を高めていきたい。

(質問10について)

グラフ10にあるように、本校の教育活動の特色の一つである「異学年交流・縦割り活動」については、保護者、学校職員が同様の傾向で、ほぼ100%の肯定的回答を得られた。保護者の皆様の、本校の教育活動への理解・協力が得られていることがわかる。一方で、児童は2割弱が否定的回答をしており、その中で「そう思わない」とより否定的にとらえている児童が約5%にのぼった。異学年交流の目的が児童にとってよりわかりやすく、さらに活動の中でそれが実感できるような取り組みになるよう工夫・改善していく。

(記述式回答について)

貴重なご意見をありがとうございました。いただいたご意見は、職員全体で共有し、今後の学校運営に活用させていただきます。